

2019年度 法科大学院

第5期入学試験問題

2時限

民法

(論文式)

試験時間 50分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。
11. 2019年度入試における民法においては、平成29年改正民法に基づいた出題を行います。ただし、平成29年改正民法または改正前民法のいずれに基づいて解答してもよく、改正前民法に基づいて解答しても不利とならず、減点もしません。
※「民法の一部を改正する法律（平成29年法律第44号）」（平成29年6月2日公布）により改正された民法を「平成29年改正民法」といい、改正前の民法を「改正前民法」といいます。

[民法]

設問 1

相殺の機能について説明しなさい。

設問 2

Aは、自己の債権者Gからの強制執行を逃れるため、知人Bと通謀のうえで、A所有の甲土地をBに売却するつもりもないのに売却し、その引渡しおよび移転登記手をすませた。ところが、Bは、自分が甲土地を有していることを奇貨として、これをA B間の事情を知っているCに売却し、甲土地の引渡しおよび移転登記手をすませた。その後、Cは、A B間の事情について何も知らないDに甲土地を売却し、甲土地を引き渡したが、登記は、まだD名義に移転していなかった。

この場合に、Aは、Dに対して、甲土地の返還を請求することができるかを検討しなさい。

(解答は全て解答用紙に記入すること)